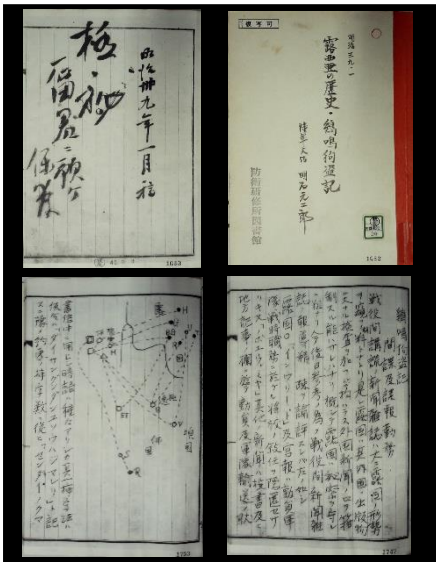


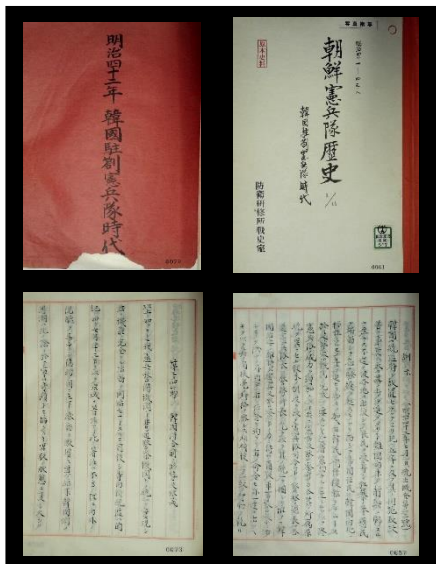
平成 30 年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎月一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

あかしもとじろう  
《 明石元二郎 1864～1919年 》  
—福岡県出身の陸軍大将—



**露西亞の歴史・鶏鳴狗盗記** (登録番号：戦役-日露戦役-20)

明石元二郎大将は、明治 16 年陸軍士官学校 (旧 6 期)、同 22 年陸軍大学校 (5 期) を卒業しました。同 28 年 8 月少佐となる明石は、下関条約後の台湾で近衛師団参謀として生涯数少ない戦闘を経験しました。その後、明石は参謀本部第三部員、駐仏、露公使館付武官を歴任します。日露戦争において明石は、反ロシア勢力を武装蜂起させることを企図して各種活動を展開し、戦後、参謀総長に対露特別勤務に関する報告書を提出しました。この史料 (複製) は、提出した報告書と同一内容のものといわれています。明石は、スウェーデンの首都ストックホルムにおいて、5 名ほどのスパイを常時駆使して情報収集を行い、その際、暗号をはじめ様々な通信手段を利用していました。こうした諜報活動等について明石は、陸軍大臣寺内正毅にも表紙を「落花流水」と銘打って提出したといわれています [本資料と『落花流水 (遺稿)』はほぼ同内容]。



**朝鮮憲兵隊歴史 韓国駐劄憲兵隊時代** (登録番号：中央-部隊歴史聯隊-517)

明治 40 年少将となった明石は、韓国統監府第 14 憲兵隊長、翌年には韓国駐劄憲兵隊長に就任します。ここで明石は、憲兵を増員し、暴徒鎮圧、秘密結社摘発等を行いました。同 42 年 10 月、ハルピンで伊藤博文が暗殺された後、明石は第 3 代韓国統監寺内正毅のもとで憲兵警察制度を確立させるなど機構の強化を図り、同 43 年 6 月韓国駐劄憲兵隊司令官となり、翌 7 月には統監府警務総長も兼任します。こうした明石の治安保全施策のもとで 8 月、日韓併合条約が調印されました。この史料は、韓国併合前後における朝鮮憲兵隊の歴史をまとめたもので、寺内の治安、憲兵隊等への要望と、明石の決心などを読み取ることができます。こうして 7 年に及んだ韓国在勤の後、明石は参謀次長、第 6 師団長、台湾総督 (兼初代台湾軍司令官) を歴任しますが、総督在任中の大正 8 年 10 月、脳溢血により 56 歳の生涯を終え、遺言により台北に埋葬されました。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。  
防衛研究所企画部企画調整課

専用線：8-6-29171、29175 (史料紹介コーナーのみ29651)

外線：03-3260-3011

FAX：03-3260-3034

※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.mod.go.jp>